# 投稿歓迎

## 心の叫び

毎日漠然と生きている。
何の目的もない　あん時捨てたんだ
あの時から俺はない　俺は抜け殻だ
一日一日生きていくのが辛い　だからといって死ぬるか。俺にはそれも出来ない。
ただ毎日何んとか過ぎればと思、ている。
俺はエゴイストだ。
だがそうしないと生きていけない、無意にもカドーをして　そうしないと自分の心が許せない。ただ時のすぎるのを待つ。
苦しい　悲しい　これもみんな俺自身が作り出した事だ。
一瞬だが未練がよこぎる。もしも、もう一回生き返るなら、もう一度チャンスを下さい。いつもべの中で叫んでいる　弱い人間。

西屋　勝彦（三三才）

## 不況に落葉しぐれてまたひとつ
## 四天王寺の鐘が鳴る

元日や中更相の部屋の中
窓開けて　今年こそ
願いをこめて　初日の出

金ヶ崎ここに真実誠あり
椎中に勝て　正義の出

同　靖彦（三七才）

## 地下たび

金切れ　酒切れ
たばこも切れた
なかなか切れんのガドヤ生活
家の日常はほとんど切れた
たびのくらしがまだ切れん
みなは靴に戻ってたびをぬぐ
俺ぬいだ後には逆戻り
ぬいだぬがされたのちがいはあれど
右足も左足も地下のたび
足袋もゴム長もなげ捨てて
いっそはだしで歩いたろか

（正月おけらの日より）

泉　達雄

## 俺はアル中

昨夜もよく飲んだナ・・・ゾッと白眼で覗えこ・・・
翌二日酔で震える指を折ってみた・酒がに
好、ビール三本、・・・・・・よく体が見付けつける
なと感心する。
数動の金ケ崎に乗て早やれ廿日・夢も希望
も青春も、女にさえも逃げられた。唯一の楽
ぐさのガ酒だった。
金に来た当初、俺の飲みっぷりを見たアル中気
味のオッサンが「あんたは十年後にはゆアル中になる！」と言った事を、最近痛烈に感
じながら、痛む肝臓、胃袋を押えつつ、今日
も俺は、酒を求めて、金ケ崎をさまよう。

金ケ崎一の酒乱男二と
大酒　隆（三二才）





# 経営者、管理人も
# "共同正犯"で起訴
## 千成ホテル火災の惨事
### 大阪地検

五年三月、大阪市西成区萩之茶屋一の八の二、簡易宿泊所千成ホテル（公称建て、二百二十一室）が全焼、宿泊客百七十人のうち死者四人、負傷者四十三人を出した大事件で、大阪地検は十八日、同ホテルの経営者と管理人を業務上過失致死傷、火災の原因の行為者（消防法違反）として、それぞれ起訴した。

検挙は来月に、防火設備を完備せず営業を続けた人命軽視の実態

経営について、経営者と管理人を業務上過失致死傷の共同正犯として起訴しようというもので、同ホテルのあいりん地区には、同様の簡易宿泊ホテルが密集、大惨事の発生性をはらんでいるだけに今度の厳しい起訴は"警鐘"を鳴らすと注目される。

起訴されたのは同区太子一の三の四、同ホテル経営者（当時）山田昇文（ますふみ）（四八）と、同管理人（同）沼田勝美（かつみ）（四八）。

又当時、宿泊していた西成区太子一の三の六、マンション新興二の八の二、鉄筋コンクリート造り、六階建て一部七階の三階以上の出火、鉄筋鉄骨コンクリート造り、六階建て一部七階の同建物一（八〇二平方メートル）の三階の部屋、十人の宿泊客、十人の従業員のうち六階の労働者、工藤次郎さん（当時二十三歳）ら三人が焼死、一人が屋上から飛び降りて死亡。四十三人が脱出の際、火傷などを負い、八カ月～二週間のケガをした。

その後の大阪府警の調べで、同ホテルの建築改造やお粗末な防火設備体制が指摘されていた。

起訴状によると、山田は三階建てを六階建てに改造して同ホテルを四十一年に買収し営業開始。市消防局の再三の勧告を無視、避難設備の設置もしなかった。防災管理者を定め、避難訓練の設置を怠

坐されたかこれも放置。消火、警報、避難の訓練も行わず、結果として宿泊客の脱出を困難にした。

消防は管理人として初期消火、宿泊者に対する警報、避難誘導の業務上の義務があるのに、四十九年十二月初めごろから、宿泊客のいたずらを理由に自動火災報知機のスイッチを切った状態放置。出火直後、別の従業員が火事を知らせたのに、管理人室に閉じこもったままで、火災発生の放送ばかりか避難誘導もいっさい行わず、消防車の放水で管理人室が水浸りし始めるとカサを差して検証した。

入交は当時、一階三〇号室に宿泊していたが、同日午前五時十五分ごろ、宿泊客をかわすために床の電気ストーブをつけ放して外出、出火させた。

このホテル火災で多数の死者を出した原因について大阪地検は、経営者が宿泊者の逃走（無銭宿泊）を恐れ、窓閉にすべて金網を張っていたことが逃げ遅れの最後の浮き場を奪ったと云っている。